

食の安全講演会

放射能汚染と私たちの食の安全は



満席の商工会議所大会議室

10月26日(水)、厚木市消費生活センター主催で「食の安全」講演会が開催されました。
講師は垣田達哉氏。消費生活センターで3年連続の講演です。
特に今年は、福島第一原発事故の後だけに、主に放射能と内部被ばくについてが語られました。

報道される食の安全

本当に食べても大丈夫？

3・11の後、日本は変わった。
東日本では放射能の話をするが、西日本とは温度差がある。阪神淡路大震災と全く逆の状態。

内部被ばくと外部被ばくは

内部被ばくについて、食品安全委員会の答申が10月27日に出る。これを私たちは消費者の立場としてどう見たらいいのか。

内部と外部の複合被ばくになる。内部被ばくは厚生労働省、外部被ばくは文部科学省の扱い。

内部被ばくは、傷口、皮膚、呼吸食から。特に食はダイレクトに入ってくる。全て受けるから、内部被ばくが問題だ。中にあるのと外にあるのでは雲泥の差だ。

日本の規制値の高さに、チェルノブイリ事故の関係者は驚いている。生涯被ばく量・100ミリシーベルトが安全だという証拠はどこにもない。

「リスクが無い」と言われれば「安全」と思ってしまうが、言葉のトリックだ。食品安全委員会は「わからない」としか言っていない。

放射線の攻撃と修復

500ペクレルとは、1秒間に500本の放射線を浴びること。放射線は、活性酸素並みに体を傷つける。セシウムとストロンチウムは人工放射能。

外部被ばくでは、スプリングラーの

ように四方八方に飛ぶが、全部が当たったものではない。

放射線が体の細胞を傷つけると、人間の体は修復する機能がある。このことを繰り返して、修復が追いつかないとガンになる危険性が高まる。

かつてカビ毒の事故米から作った卵焼きは全部回収したのに、今回の放射能の対応は全く違っている。今の計算では影響がわからないが、1ミリシーベルトでも影響はあるはずだ。

20・30年後にわが子がガンになったらたまらない。あの時疎開しておけばよかった、食べさせなきゃよかったとなる。「なんであのときお母さんが……」と言われたら、親としてはたまらない。過剰反応・異常とは私は言えない。

テレビ番組の収録で、タレントの石原良純が、基準値について「高すぎる」と言ったら全てカットされた。NHKのラジオでは話して良かったことも、NHKテレビでは「ラジオでは言っても、テレビでは言えないかもわからない」とスタッフに言われた。民放は全くダメ。東電がつぶれない限り、絶対ダメ。

衆議院で東京大学の児玉龍彦教授は福島原発について「ヒロシマの30個分の放射線が放出」と発言。

セシウムの除去は

杉・ヒノキの葉に多くのセシウム。花粉と一緒に飛んでくるのではない。雪解け水、腐葉土、川、地下水。セシウムは水溶性であり、低いなりにも、汚染されている。

検査。野菜は20秒間流水で洗い、変質外葉を除きキッチンペーパーで水分を取ってから。魚は骨や内臓を取ってから。コウナゴは丸ごとなので、最初に出た。牛肉、部位は一切公表しない。生産者レベルの検査はとも信信用できない。商品の抜き取り検査をすべきだ。国は食の安全にお金を使う気がない。低い値は測れない機械もあり、不検出となる。水道水は低減。東京の水通水、たった一日基準値をオーバーした。孫のためにミネラルウォーターを送るのは、精神安定剤。

京都大学の今中哲二氏は原発作業員の調査で、被ばくの可能性が高いとガンの可能性高いと、データで示している。

雨がアスファルトから下水処理場に。汚泥や焼却灰は高濃度になる。想像以上に汚染されているかも知れない。

放射能については「わからない」のが現実。限られた情報しかない。自分の身を守るのは自分。家族環境などで違ってくる。最終的に、「自分で判断するしかない」。

汚染と向き合い、個人、国、行政がどうするか。次の世代をどうしていくのか皆で考え、安全な日本をつくっていかなくてはならない。

この他には、生肉(ユッケ)の話も。6歳の子が、出がけに母親が「生肉を食べさせないで」と言ったのに、父親が食べさせてしまい、亡くなったという例。

最後に会場から「講師宅の食事はどうなの?」との質問がありました。「普通にスーパーなどで購入している。産地ぐらいいかにしていい。水道水は全然気にせず、飲んでいきます。牛肉はもととあまり食べていません。みなさんともあまり変わりがありません」との答え。

なお、10月31日の朝日新聞は、チェルノブイリ原発事故処理に当たり、事故が人々に及ぼした影響を研究し、化学の専門家の言葉を紹介しています。「過激な情報は被災者の精神に多大な影響を及ぼす。多くの場合、放射線よりも「情報汚染」の悪影響が大きい。福島原発事故の深刻な影響は地域的。海外や大半の日本に危険は無い」。

消費生活センターの「食の安全講演会」は昨年がTPP、今年は原発事故後の放射能汚染。食は身近だけに本当にいろいろ問題が出てきます。

被害が明らかになってから大騒ぎするのではなく、アンテナを高く張って、正確な情報をもとに危険を予見する力を、私たちは持たなければならぬと強く思う日々です。